

ちょっと読んでみませんか（令和四年お盆）

第63話 『「君が代」のこころ』 〈本源寺副住職 本間健司〉

とても悲しい事件が起きてしまいました。

安倍元総理が遊説中に銃撃され、その尊い命があつという間に終わりを迎えてしまうという信じられない事件です。

実はこの事件が起きる前から、今回のプリントのテーマは決めていました。しかし、安倍元総理が突然死去されたことで、その御魂を弔う想いも込めて、あらためて今回のテーマについて皆さんにお伝えしたいという思いを強くしました。

さて、その今回のテーマとは、日本の国歌である「君が代」についてです。

最初に、皆さんに三つの問いかけをしたいと思います。

- 1, 「君が代」の内容について学校で教わったことがありますか？
- 2, 「君が代」を歌う時、心を込めて歌っていますか？
- 3, 「君が代」を日本の国歌として、自信を持って他国の方に紹介することが出来ますか？

先日、月刊誌『致知』7月号に掲載されていた、『「君が代」のこころを忘れない』という記事を読んだ時、私は自国の国歌について何も知らなかったことを、あらためて思い知らされました。

その記事は、アメリカ人弁護士という立場から日本文化の素晴らしさを伝え続けているケント・ギルバートさんと、歴史研究家の白駒妃登美（しらこまひとみ）さんとの対談という形で、「君が代」のことが取り上げられていました。以下、その対談の一部です。

《「君が代」は、いまから千年以上前に編纂（へんさん）された『古今和歌集』に出てくる和歌がそのベースになっています。その歌がずっと日本人に愛され、歌い継がれてきて、明治になると国歌として歌われるようになります。それだけの長い歴史があるんです。

その和歌は「きみがよ」ではなく「わがきみは」という言葉から始まります。

わがきみは

ちよにやちよに

さざれいしの

いはほとなりて

こけのむすまで

(その意味は)「愛するあなた、あなたの命がいつまでもいつまでも長く続きますように。たとえば、小さな石が、年月が積もり積もって大きな岩となり、その岩の表面に苔が生えるまで、そのくらいあなたの命が長く続きますように。そしてあなたがずっと幸せでありますように」という「愛の歌」だったんです。

しかも、そこには「自分を愛して」という言葉は一言も出てきません。ひたすらに愛する人の長寿と幸せを祈るという“究極の利他の心”が溢れているところに感動し、胸がいつぱいになりました。

「君が代」は江戸時代までは、結婚式やお正月や長寿の祝いの席などで、あるいは日常の暮らしの中で歌われてきた、国民みんなの歌でした。》

——「君が代」はもともと、愛する人、大切な人への「愛の歌」だった——

先ほどの質問1ですが、この「君が代」の由来・内容について、私は学校で教わったことは一度もありませんでした。

(次の引用です)

《明治時代になると、「君が代」は国歌として、国の催す様々な行事で歌われるようになります。

国歌を天皇陛下と国民が一緒に歌う時、国民は「陛下のご長寿と平和なこの国がいつまでもいつまでも続きますように」と願いますが、陛下は、国民の命の尊さを思い、我が国と世界の人々の安寧と幸せを、そして平和を祈ってくださいます。

お互いに思いやる心が響き合う歌、それが「君が代」なのだと思います。》

質問2「心を込めて歌えますか」ですが、心を込められない方の大きな理由の一つとして、さきの大戦敗北という辛い過去を思い出してしまうから、という方も多いと思います。

しかし、またも戦争という世界の現実に向き合っている今だからこそ、日本人の“象徴”である天皇陛下と国民がお互いに信じ合い、共に平和を祈り守る、という根本精神にあらためて立ち返ることが必要ではないでしょうか。繰り返さないためにも。

そして、最後の質問3についてです。歴史家の白駒さんは、日本人が大昔から自然界や他生物との共生を実践してきたという事実と、そして、仏教の『生きとし生けるもの全ての命を尊重する』という精神を考え併せ、次のように想いを語ります。

《「君が代」が伝える命は人間に限ったことではなく、動物であったり植物であったり、あるいは地球そのものであってもいいのではないか。

つまり、生きとし生けるすべてのものに対する慈しみが「君が代」の世界観であり、いわば“命の讃歌”と言えるのではないかと。「君が代」を“命の讃歌”と捉えれば、これは人類の宝であると。世界中の人たちと、この宝を分かち合いたいと思ったのです。》

思えば、ブータンという小さな仏教国の精神が注目され、「持続可能な開発目標(SDGs)」として国連のテーマに掲げられる時代になりました。すべての生き物が共存していかないと人類の未来も無いと世界が気付き始めた今だからこそ、世界の、地球の平和・永続を祈る歌として、日本人が「君が代」を自信を持って歌い、その「こころ」を世界に発信していく。それは日本人だからこそ出来る役割であると、私も強く感じました。

——自信を持って大きな声で国歌「君が代」を歌う日本人の姿——

それは、「日本再生」に命を懸けられた安倍元総理の御魂にも、大きな供養になると信じ、君が代は 千代に 八千代に…♪ 合掌 南無妙法蓮華経 南無妙法蓮華経